

4 県民意向調査等の結果概要

(1) 21世紀の“とちぎ”づくりに関する県民意向調査

実施時期：平成16年2月	実施主体：県（企画調整課）
配布数：5,000人（20歳以上・無作為抽出法による）	
有効回答数：2,286人（有効回答率 45.7%）	
（ 男性 1,129人（49.4%）	
女性 1,143人（50.0%）	（性別の無回答者14名）

1 調査の趣旨

次期総合計画の策定に必要な資料を得るため、望ましい郷土の姿、“とちぎ”の現状に対する評価、行政の取組に対する期待等に関して、県民の意向を調査したものである。

2 調査結果の概要

1) 生活の関心事（14項目から3つまで選択）

- ①「自分の健康・体力」（62.1%） ②「自分の老後」（41.7%） ③「家族の健康・介護」（36.6%）
- ④「仕事、事業（学生の場合：学習）」（29.4%）

2) これからの望ましい「とちぎ」の姿（14項目から3つまで選択）

- ①「お年寄りも心や身体に障害を持った人々もみんなが気持ちよく暮らせる地域」（47.3%）
- ②「森や川や身近な環境を大切にする地域」（39.4%）
- ③「地域社会の人々みんなが助け合っている地域」（36.9%）
- ④「安心して子どもを産み育てていくことができる地域」（35.9%）

3) “とちぎ”の現状評価

「とちぎ21世紀プラン」の政策体系の73の施策を57の項目に分け、“とちぎ”の現状（行政の取組だけでなく、民間等の活動も含む。）を次の区分から選択

- | | | |
|------------|-------------|-------------|
| 1.充実している | 2.わりと充実している | 3.どちらともいえない |
| 4.やや不十分である | 5.不十分である | 6.わからない |

○満足意識（「充実している」「わりと充実している」と回答した者の割合の計）

- ①「安全で安定した水の供給」（44.7%）
- ②「特色ある農産物の生産」（40.3%）
- ③「公園や水辺の整備」（27.9%）
- ④「下水道の整備」（23.4%）
- ⑤「道路ネットワーク」（22.1%）

○不満足識（「やや不十分である」「不十分である」と回答した者の割合の計）

- ①「雇用の安定と職業能力の向上」（61.1%）
- ②「心の教育」（57.8%）
- ③「青少年の健全育成」（57.4%）
- ④「地域に密着した産業の育成」（56.4%）
- ⑤「ひとにやさしいまちづくり」、「犯罪のない地域づくり」（55.3%）

4) 今後の行政の取組の必要性

57 項目毎に、今後の行政（国・県・市町村）の取組はどうあるべきかについて、次の区分から選択

- | | | |
|--------------|--------------|-------------|
| 1.特に重点的に取り組む | 2.現状以上にに取り組む | 3.現状程度に取り組む |
| 4.現状以下でよい | 5.わからない | |

○期待意識（「特に重点的に取り組む」「現状以上にに取り組む」と回答した者の割合の計）

- ①「心の教育」（75.3%）
- ②「犯罪のない地域づくり」（71.6%）
- ③「雇用の安定と職業能力の向上」（70.0%）
- ④「青少年の健全育成」（69.7%）
- ⑤「基礎学力の向上」（68.5%）

5) これからの県民の役割

57 項目について、今後、県民（個人、企業、各種団体などの民間全般）の役割が現状以上に大きくなるであろうものを選択

- ①「心の教育」（52.4%）
- ②「青少年の健全育成」（50.7%）
- ③「社会貢献活動」（47.9%）
- ④「廃棄物対策」（46.2%）
- ⑤「犯罪のない地域づくり」（44.4%）

6) 今後の行政サービスと税金等の負担の関係

- ①「どちらかといえば、行政サービスは少なくとも、税金等の負担が少ない方がよい」（31.3%）
- ②「税金等の負担も、行政サービスも現状程度でよい」（19.8%）
- ③「どちらかといえば、税金等の負担が多くても、充実した行政サービスを受けられる方がよい」（16.8%）
- ④「行政サービスは少なくとも、税金等の負担が少ない方がよい」（15.4%）

7) “とちぎ”づくりの参加意向

- ①「できる範囲で何かしたい」（74.4%）
- ②「積極的に何かしたい」（6.8%）
- ③「あまり何もしたくない」（6.6%）

(2) 栃木県の新しい総合計画に関する市町村長意向調査

実施時期：平成16年5月

実施主体：県（企画調整課）

対象者：県内49市町村長

1 調査の趣旨

次期総合計画の策定に必要な資料を得るため、望ましい郷土の姿、“とちぎ”の現状に対する評価、市町村の重点推進項目等に関して、市町村長の意向を調査したものである。

2 調査結果の概要

1) これからの望ましい「“とちぎ”の姿」（14項目から3つまで選択）

- ①「安心して子どもを産み育てていくことができる地域」（回答数30、61.2%）
- ②「新しい事業にチャレンジできる産業活動が活発な地域」（同17、34.7%）
- ③「地域社会の人々みんなが助け合っていける地域」、
「森や川や身近な環境を大切にする地域」（同16、32.6%）
- ⑤「お年寄りも心や身体に障害を持った人々もみんなが気持ちよく暮らせる地域」
(同15、30.6%)

2) 行政運営上、特に重視又は積極的に取り組むべきこと（11項目から3つまで選択）

- ①「住民との協働による地域づくり」（回答数35、71.4%）
- ②「地域の特色を活かした独自性のある政策の展開」（同32、65.3%）
- ③「財政運営の健全化」（同26、53.1%）

3) “とちぎ”の現状評価

「とちぎ21世紀プラン」の政策体系の73の施策を57の項目に分け、“とちぎ”の現状（行政の取組だけでなく、民間等の活動も含む。）を次の区分から選択

- | | | |
|------------|-------------|-------------|
| 1.充実している | 2.わりと充実している | 3.どちらともいえない |
| 4.やや不十分である | 5.不十分である | |

○満足意識（「充実している」「わりと充実している」と回答した市町村長の割合の合計）

- ①「特色ある農産物の生産」（回答数29、59.2%）
- ②「安全で安定した水の供給」（同27、55.1%）
- ③「生涯学習」（同19、38.8%）
- ④「健康づくり」、「地域社会における保健福祉ネットワーク」（同18、36.7%）

○不満足意識（「やや不十分である」「不十分である」と回答した市町村長の割合の合計）

- ①「廃棄物対策」（回答数 34、69.4%）
- ②「公共交通ネットワーク」（同 33、67.4%）
- ③「本県のイメージアップ」、「地域に密着した産業の育成」（同 32、65.3%）
- ④「ひとにやさしいまちづくり」、「地球温暖化の防止」（同 30、61.2%）

4) 今後の行政の取組の必要性

57 項目毎に、今後の行政（国・県・市町村）の取組はどうあるべきかについて、次の区分から選択

- | | | |
|-------------|------------|------------|
| 1.特に重点的に取組む | 2.現状以上に取組む | 3.現状程度に取組む |
| 4.現状以下でよい | | |

○必要意識（「特に重点的に取組む」「現状以上に取組む」と回答した市町村長の割合の合計）

- ①「廃棄物対策」（回答数 49、100%）
- ②「子育て環境」（同 45、91.8%）
- ③「犯罪のない地域づくり」、「心の教育」（同44、89.8%）
- ④「基礎学力の向上」、「行政への住民参加」、「快適でゆとりのある教育環境」（同 43、87.8%）

5) これからの市町村の役割

57 項目について、今後、行政の役割のうち、特に市町村の役割が大きくなるであろうものを選択

- ①「廃棄物対策」（回答数 41、83.7%）
- ②「行政への住民参加」、「ひとにやさしいまちづくり」（同 38、77.6%）
- ③「心の教育」、「子育て環境」（同 35、71.4%）

6) これからの住民の役割

57 項目について、今後住民（個人、企業、各種団体などの民間全般）の役割が現状以上に大きくなるであろうものを選択

- ①「犯罪のない地域づくり」（回答数 37、75.5%）
- ②「社会貢献活動」（同 36、73.5%）
- ③「青少年の健全育成」、「男女共同参画社会づくり」、「廃棄物対策」（同 33、67.3%）
- ④「高齢者の自立と生きがいづくり」、「地域社会における保健福祉ネットワーク」、「環境保全のための自主的な活動」（同 31、63.3%）

7) 市町村の重点推進分野（57項目を7分野に括り、上位3位まで選択）

- ①「生活基盤・まちづくり」（回答数 33、67.3 %）
- ②「保健・医療・福祉など」、「経済・産業」（同 28、57.1 %）

8) 市町村の特色ある地域づくり（14項目から3つまで選択）

- ①「地域特性を活かした豊かな農林水産業」（回答数 19、38.8 %）
- ②「道路網の発達や東京圏等からのアクセス」、「地域コミュニティ・人と人とのネットワーク」（同 14、28.6 %）

(3) 21世紀の“とちぎ”づくりに関する若者意向調査

実施時期：平成16年7月

実施主体：県（企画調整課）

対象者：県立、私立を含む県内高校2年生

回答数：(26校) 1,051人

(男性 484人 (46.0%)
女性 561人 (53.4%) (性別の無回答者6名)

1 調査の趣旨

次期総合計画の策定に必要な資料を得るため、“とちぎ”のイメージや特色、これからの望ましい“とちぎ”の姿等に関して、高校生の意向を調査したものである。

2 調査結果の概要

1) 今の“とちぎ”をどのように感じているか

(13項目毎に「そう思う」「そう思わない」のいずれかを選択)

◇「そう思う」を選択した者が多い順

- | | | |
|------------------|------------------|-----------------|
| ①「暮らしやすい」(69.8%) | ②「開放的である」(61.6%) | ③「あたたかい」(59.9%) |
| ④「豊かである」(54.4%) | ⑤「個性がある」(50.7%) | |
| ⑥「明るい」(49.3%) | ⑦「美しい」(47.9%) | ⑧「堅実である」(39.5%) |
| ⑨「安全である」(33.5%) | ⑩「活気がある」(28.4%) | ⑪「便利である」(25.1%) |
| ⑫「情報が多い」(14.9%) | ⑬「先進的である」(12.7%) | |

2) 将来も“とちぎ”に住みたいか

- | | |
|--------------------------|---------|
| ①「ずっと住みたい」 | (8.9%) |
| ②「一度外に出ても、将来は“とちぎ”に住みたい」 | (31.4%) |
| ③「わからない」 | (29.1%) |
| ④「住みたくない」 | (29.5%) |

——理由（7項目から2つまで選択）

- | | |
|-------------------------------|---------|
| ①希望する就職先・進学先がないから | (37.7%) |
| ②買い物、通勤、通学など生活が不便だから | (37.4%) |
| ③魅力あるイベント、コンサート、レジャー施設などがないから | (31.3%) |
| ④街に活気がないから | (28.7%) |

3) “とちぎ”の誇れるもの、魅力あるもの、他県の人に自慢できるもの

(12項目から3つまで選択)

- | | |
|--------------------------------------|---------|
| ①「そばやラーメン、ぎょうざ、いちごなど各地に美味しい食べ物があること」 | (55.0%) |
| ②「水辺や里山、田園など豊かな自然が身近にあること」 | (54.0%) |
| ③「日光の二社一寺や足利学校など各地に歴史的な名所・旧跡があること」 | (46.3%) |
| ④「豊富な温泉」 | (27.4%) |
| ⑤「災害が少なく安全なこと」 | (21.1%) |

4) これからの望ましい「とちぎ」の姿」（14項目から3つまで選択）

- ①「買い物や娯楽サービスなどが楽しめるにぎわいのある地域」 (38.6 %)
- ②「お年寄りも心や身体に障害を持った人々もみんなが気持ちよく暮らせる地域」 (34.1 %)
- ③「森や川や身近な環境を大切にする地域」 (28.6 %)
- ④「安心して子どもを産み育てていくことができる地域」 (27.0 %)
- ⑤「勉強や研究、スポーツや文化、芸術活動などが活発な地域」 (24.8 %)

5) 「とちぎ」づくりの参加意向

- ①「できる範囲で何かしたい」 (57.0%)
- ②「わからない」 (14.7 %)
- ③「あまり何もしたくない」 (13.0 %)
- ④「積極的に何かしたい」 (7.6%)
- ⑤「何もしたくない」 (5.5 %)